北アメリカ州

名前

問1　1855年に開通し、大西洋と太平洋の二つの大洋をつなぐ物流の要として機能した北アメリカの鉄道について、20世紀初頭にその貿易上の役割が大きく低下した理由と、現在の主な活用方法として適切な説明はどれですか。（2023年 東京都公立入試 類似）

1. オーストラリア連邦鉄道の成功により、羊毛輸送の拠点が南半球に移ったため、現在は軍事的な補給路として活用されている。
2. 1914年にパナマ運河が開通し、船舶による直接航行が可能になったため、現在は歴史的価値を生かした観光資源として活用されている。
3. スエズ運河の開通によって欧州からの航路が短縮されたため、現在は主に近隣諸国の通勤路線として活用されている。
4. シベリア鉄道の全通により、ユーラシア大陸を経由する輸送が主流となったため、現在は大部分が貨物専用の廃線となっている。

問2　アメリカ合衆国の中西部に広がるトウモロコシ地帯（コーンベルト）の気候的特徴について、より北西側に位置する小麦の栽培地域と比較した説明として、正しいものはどれですか。（2020年 山形県公立入試 類似）

1. 小麦の栽培地域と比較して、年平均気温は高いが、年降水量は少ない。
2. 小麦の栽培地域と比較して、年平均気温が低く、年降水量は多い。
3. 小麦の栽培地域と比較して、年平均気温が高く、年降水量も多い。
4. 小麦の栽培地域と比較して、年平均気温が低く、年降水量も少ない。

問3　北緯40度の地点で、アメリカ合衆国の東海岸に位置するニューヨークやワシントンD.C.付近を通過し、この地域の標準時を定める基準となっている経線（標準時子午線）はどれですか。（2017年 鳥取県公立入試 類似）

1. 西経75度
2. 東経75度
3. 東経135度
4. 西経135度

問4　アメリカ合衆国と日本の農業を比較した際、アメリカの農業就業者1人当たりの穀物収穫量が日本を大きく上回っている主な理由として、最も適切な説明はどれですか。（2021年 長野県公立入試 類似）

1. 二毛作や二期作を組み合わせることで、年間を通じて収穫回数を増やしているため。
2. 棚田などの傾斜地を有効に活用し、土地面積当たりの収穫量を最大化しているため。
3. 広大な土地で大型機械を効率的に使用する大規模農業が行われているため。
4. 農業従事者の人口が日本よりも大幅に少なく、1人あたりの作業負担が分散されているため。

問5　20世紀のデトロイトにおいて、自動車の製造コストを大幅に下げ、大衆への普及を可能にした生産体制の仕組みを何と呼びますか。（2024年 大阪府公立入試 類似）

1. 最新のAIを用いた完全自動化生産方式
2. 流れ作業による大量生産方式
3. 熟練工による手作業の受注生産方式
4. 部品を外部から調達しない自給自足型生産方式

問6　アメリカ合衆国のデトロイトが、自動車産業の拠点として発展した地理的な背景を説明した文として、最も適切なものを選択してください。（2024年 大阪府公立入試 類似）

1. 五大湖の水運などを利用して、原料となる鉄鋼などを確保しやすい環境にあったため
2. 周辺に広大な綿花地帯が広がっており、タイヤの原料となる天然ゴムの生産が盛んだったため
3. メキシコとの国境に近いサンベルトに位置し、安価な労働力を大量に確保できたため
4. 太平洋に面しており、日本などのアジア諸国へ製品を輸出するのに最も適した港町だったため

問7　アメリカ合衆国の地域別工業生産額の変化を示す資料において、近年その割合を大きく伸ばしている太平洋岸地域。その中心の一つであるサンフランシスコ近郊に位置し、半導体やソフトウェアなどの先端技術産業が高度に集積している地域を何と呼びますか。（2022年 島根県公立入試 類似）

1. サンベルト
2. シリコンバレー
3. ピッツバーグ
4. デトロイト

問8　アメリカ合衆国の西経100度より西側に位置する広大な内陸地域において、小麦やトウモロコシの栽培ではなく、牛や羊を育てる農業が主に行われている理由として、最も適切な説明はどれですか。（2018年 富山県公立入試 類似）

1. 五大湖周辺の大都市に近いため、鮮度が重要な生乳を出荷するのに適しているから
2. 温暖で湿潤な気候を利用して、衣類などの原料となる繊維製品を大量生産するため
3. 地中海性気候の影響を受け、夏季の乾燥を利用して果実栽培を行う必要があるため
4. 降水量が少なく乾燥しており、灌漑施設のない広大な土地では作物の栽培が困難であるため

問9　アメリカ合衆国の産業の変化と地域的特色について述べた文のうち、サンフランシスコ周辺に位置する「シリコンバレー」の説明として最も適切なものを選択してください。（2016年 大阪府公立入試 類似）

1. 広大な土地を利用した企業的農業が盛んであり、バイオテクノロジーを用いた穀物の品種改良が行われている。
2. コンピュータや半導体に関連する企業や研究機関が集中しており、世界の先端技術産業をリードしている。
3. 五大湖周辺に位置し、かつては鉄鋼業や自動車産業で栄えたが、現在は施設の老朽化が課題となっている。
4. 北緯37度以南の温暖な地域に位置し、安価な労働力を背景に航空宇宙産業や石油化学工業が発展している。

問10　アメリカ合衆国の西経100度付近に位置するグレートプレーンズでは、年間降水量が約500mm程度と少ないため、大規模な灌漑農業が行われています。地下水をくみ上げ、自走式のスプリンクラーを中心軸の周りに回転させて散水する、上空から見ると円形の農場が広がる農業方式を何と呼びますか。（2015年 大分県公立入試 類似）

1. ポルデル
2. センターピボット方式
3. ドライファーミング
4. 等高線耕作

問11　アメリカ合衆国における温室効果ガスの排出状況について、国民1人あたりの排出量が他の国々と比較して特に高い水準にある背景として、最も適切な説明はどれですか。（2024年 栃木県公立入試 類似）

1. 人口密度が世界で最も高く、狭い土地に多くの工場や住宅が密集しているから
2. 熱帯雨林の焼失による二酸化炭素の放出が、国内の排出量の半分以上を占めているから
3. 広大な国土を持ち、移動における自動車への依存度が高いほか、家庭でのエネルギー消費量も多いから
4. 再生可能エネルギーの導入を一切行わず、すべての電力を石炭火力発電に頼っているから

問12　北アメリカ大陸の中部に広がる、年平均気温が約10度で夏季と冬季の寒暖差が大きく、年間を通じて一定の降水量（約900mm程度）がある地域で行われている農業の特色について、背景を含めて説明したものとして正しいものはどれですか。（2019年 東京都公立入試 類似）

1. 偏西風の影響で一年中温暖な気候を活かし、都市向けの生鮮野菜を生産する近郊農業が中心となっている
2. 広大な平原と適度な降水量を活かし、大型機械を用いた効率的な手法で小麦などを生産する「適地適作」が行われている
3. 降水量が少なく乾燥しているため、センターピボットと呼ばれる散水装置を用いて、地下水を汲み上げながら綿花を栽培している
4. 標高が高い山岳地帯であるため、涼しい気候を活かしてアルパカの放牧やジャガイモの原産地としての農業が行われている

答え合わせ・解説

問1	答え 2 1914年にパナマ運河が開通し、船舶による直接航行が可能になったため、現在は歴史的価値を生かした観光資源として活用されている。	北アメリカの大陸横断鉄道（またはそれに類する大洋をつなぐ鉄道）は、当初、大西洋と太平洋を陸路で結ぶ唯一の効率的な輸送手段として、19世紀半ばの貿易において極めて重要な役割を果たしました。しかし、1914年にパナマ運河が完成したことで、船舶が大陸を横断せずに二つの海を行き来できるようになったため、物流の主役を運河に譲ることとなりました。現在では、その歴史的な背景や壮大な景観を楽しむための観光資源として再評価され、利用されています。
問2	答え 3 小麦の栽培地域と比較して、年平均気温が高く、年降水量も多い。	アメリカ合衆国では、それぞれの地域の気候や土壌に合わせて特定の農作物を栽培する「適地適作」が行われています。トウモロコシは成長に一定の温度と十分な水分を必要とするため、より北西側の内陸部に位置し、冷涼で乾燥している小麦地帯（プレーリーなど）に比べて、南東側に位置し温暖で湿潤な環境にある地域で盛んに栽培されています。
問3	答え 1 西経75度	地球は24時間で360度回転するため、経度15度ごとに1時間の時差が生じます。アメリカ合衆国の東海岸に位置するニューヨークなどでは、西経75度の経線を標準時子午線として採用しています。なお、日本の標準時子午線は東経135度であり、これらの方角や度数の違いを正確に把握しておく必要があります。
問4	答え 3 広大な土地で大型機械を効率的に使用する大規模農業が行われているため。	アメリカ合衆国の農業は、1家族や1経営体あたりの耕地面積が日本に比べて格段に広く、大規模農業と呼ばれます。大型のトラクターやコンバイン、航空機による農薬散布などを活用することで、少ない労働力で膨大な量の穀物を生産できる仕組みが整っています。そのため、農業就業者1人当たりの収穫量は日本（1人当たり約9トン）に比べ、アメリカ（1人当たり約148トン）の方が圧倒的に多くなります。
問5	答え 2 流れ作業による大量生産方式	フォード社などが導入したこの方式は、作業を細分化してベルトコンベアで製品を移動させることで、短時間で効率的に同じ品質の製品を大量に作ることを可能にしました。この「大量生産・大量消費」の仕組みは、その後の世界の工業化のモデルとなりました。
問6	答え 1 五大湖の水運などを利用して、原料となる鉄鋼などを確保しやすい環境にあったため	デトロイトを含む五大湖周辺は、近隣で採掘される鉄鉱石や石炭を水運で結びつけることができたため、古くから鉄鋼業が発展していました。自動車の主原料である鉄を安価に安定して入手できたことが、この地で自動車産業が成長した大きな要因です。サンベルトは北緯37度以南の地域を指すため、デトロイトは含まれません。
問7	答え 2 シリコンバレー	アメリカの工業の中心は、かつての重厚長大産業が盛んだった五大湖周辺から、先端技術産業が成長した南部や西部の地域へと移行しました。サンフランシスコの南に広がるこの地域は、半導体の主原料である「シリコン」にちなんで命名され、世界的なICT（情報通信技術）企業の本拠地が数多く存在しています。
問8	答え 4 降水量が少なく乾燥しており、灌漑施設のない広大な土地では作物の栽培が困難であるため	北アメリカ大陸の西経100度付近は、年間降水量約500mmのラインとほぼ一致しています。これより西側は降水量が少なく乾燥した気候であるため、大規模な耕作には向きません。そのため、わずかに生える草を餌として家畜を飼育する形態が発達しました。選択肢にある「五大湖周辺」は酪農、「温暖湿潤な地域」は綿花栽培、「地中海性気候」は果物栽培の説明です。
問9	答え 2 コンピュータや半導体に関連する企業や研究機関が集中しており、世界の先端技術産業をリードしている。	シリコンバレーは、従来の重工業中心の産業構造から、知識集約型の先端技術産業（ICT産業）への転換を象徴する地域です。選択肢にある「北緯37度以南」の説明はサンベルト全体の特徴を指しており、五大湖周辺の説明はラストベルト（古くなった工業地帯）を指しています。シリコンバレーはサンベルトの一部に含まれることもありますが、特にICT産業の集積地としての個別の特徴を捉えることが重要です。
問10	答え 2 センターピボット方式	乾燥した地域で安定した収穫を得るために、地下水を水源として利用する工夫です。巨大な散水機が円を描くように動くため、農場が円形になるという特徴的な景観が生まれます。アメリカ合衆国の企業的な穀物農業を支える重要な技術の一つです。
問11	答え 3 広大な国土を持ち、移動における自動車への依存度が高いほか、家庭でのエネルギー消費量も多いから	アメリカ合衆国ではモータリゼーションが進んでおり、広大な国土を移動するために自動車が不可欠な生活基盤となっています。また、大型の住宅における冷暖房の使用など、1人あたりのエネルギー消費量自体が他国より多いことが、高い温室効果ガス排出量に直結しています。中国やインドなどの新興国と比較しても、この1人あたりの消費の多さは顕著な課題となっています。
問12	答え 2 広大な平原と適度な降水量を活かし、大型機械を用いた効率的な手法で小麦などを生産する「適地適作」が行われている	この地域は「世界の食糧庫」とも呼ばれ、冷帯や温帯の気候区分にまたがっています。広大な土地と、年間を通じて極端な乾燥がない気候条件を背景に、それぞれの土地の気候や土壌に最も適した作物を栽培する「適地適作」が徹底されており、高度に機械化された大規模農業が展開されています。